

【御所ヶ丘中学校区】

「つなぐ」を意識した一貫教育の取組

1 はじめに

御所ヶ丘中学校区は、各小学校近くに保育園や幼稚園があり、学区内に守谷高等学校がある。こうした立地条件を生かし、保・幼・小・中・高を「つなぐ」一貫教育が進めている。積極的に保育園・幼稚園、守谷高校との交流を進めながら、一貫教育の核となる小学校と中学校の連携を推進している。

2 具体的な取組

(1) 道徳教育

① 今年度の取組 『失敗にくじけず一步一步努力できる児童・生徒の育成』

昨年度実施した御所ヶ丘小学校・御所ヶ丘中学校合同授業（教材目「ハチドリのひとしずく」）を受け、今年度も、中学校1年生と小学校5年生で共通の教材を使った授業を実施することで、目標の実現を目指した。

ア 対象学年

御所ヶ丘中学校（第1学年）

大井沢小学校・御所ヶ丘小学校・松前台小学校（第5学年）

イ 実施の流れ

11月 各クラスで「ハチドリのひとしずく」の授業を実施する。

12月 小学生のワークシートを中学校に届ける。

※名前を消し、クラスと番号のみ分かる状態にしておく。

1月 中学生が小学生のワークシートにコメントを書いて、小学校に戻す。

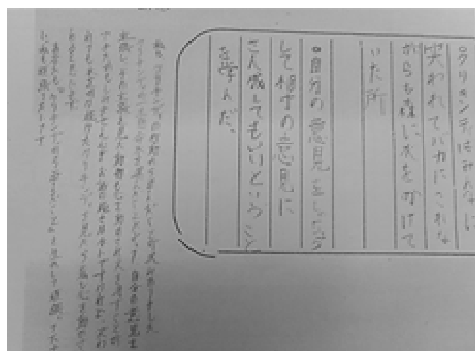
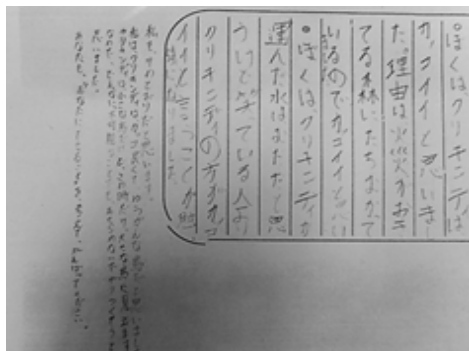
※実施の方法は、中学校で決める。

2月 中学校から戻ってきたワークシートを小学生（本人）に戻す。

ウ コメントの分担

小学校	大井沢 5-1	大井沢 5-2	大井沢 5-3	御所ヶ丘 5-1	御所ヶ丘 5-2	松前台 5-1	松前台 5-2
中学校	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7

エ 実際のワークシート



② 成果と課題

- 小学生は、中学生がコメントを入れてくれたワークシートを見て、自分の考えとは違う考え方に触れ、改めて、「ハチドリのひとしずく」について考え直すことができた。
- 中学生は、小学生のワークシートを読んで、6年生だったときの自分の考えを思い出し、自分の成長を感じることができた。
- 平成26年度の実践とは変えて実施したが、学級によって、深まりに差があった。

③ 次年度の予定

- 教科化に向けて、重点項目の見直しをする。
(引き続き、(5)希望と勇気、努力と強い意志にするかどうか、検討する。)
- 「ハチドリの一としずく」を実施する。実施方法は、4校で検討する。

(2) 外国語教育

① 小・中学校を通じた一貫した指標の設定

小学校高学年から中学校までの発達段階に応じた目標や目標を達成するための手立てが明示されている守谷市小中一貫外国語教育指導計画を指標にして、中学校での最終目標「目指す生徒像」＝「誰もがインタラクティブフォーラムで自分の思いを伝えることができる」に向かって、小中学校ともに指導にあたっている。



インタラクティブフォーラム形式の活動

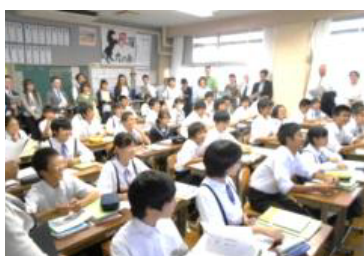
中学2年生

② 学習教材の共有

小学校6年生から中学校3年生まで継続して使用している統一素材Moriya communication challenge (以下MCC) や phonics を活用して、中一ギャップを緩和している。生徒たちは小学校5年生から学んでいる phonics や6年生から使用しているMCCでの表現を中学校で再履修することによって、小学校の外国語活動の経験が中学での英語学習の土台となっているという安心感をもって中学校英語学習に取り組んでいる。

③ 教員養成と研修

各校で行う研究授業やその後の協議会によって、小中学校の教員や市内ALTの交流、さらに、授業法をシェアすることができている。本年度は10月1日(木)に御所ヶ丘中学校で行われた。



全小中学校のALTと教員が参観

守谷市内の全小中学校からALTと外国語活動部員が集まり、御所ヶ丘中学校教員とALTによる公開授業を参観した。このような活動を通じて、小中学校では教授法を共有することができる。



小学校のALTと会話活動を行う生徒

大井沢、松前台、御所ヶ丘小学校の教員やALTは、小学校外国語活動が中学校での英語学習にどのように変化していくのか、つながりを知り、小学校での公開授業では、本中学校区の児童の英語に関する力を知ることができる。また、授業内で行われるコミュニケーション活動では、自校のALT以外とやりとりをする機会となっている。

(3) 情報教育

御所ヶ丘中学校区では、学びのプランに記載された学習スキルを定着させるために、ICT機器を活用した授業スタイルの意識化・共有化を図った。アクティブラーニングの視点を取り入れた児童主体の授業改善が進んだ。またインクルーシブ教育の視点から、児童の合理的配慮を進めるためのICT機器の活用を行った。

① ICT機器を活用した授業スタイルの意識化・共有化

ア デジタル教科書実用研修 (H27.6.8)

デジタル教科書の導入に伴い、東京書籍から講師を招いて実践活用研修を実施した。研修では、デジタル教科書の機能を活用したワークシートの作成方法、動画の活用等について確認した。研修により、教師のICT機器活用力が向上した。



イ 従来の黒板と電子黒板を組み合わせた授業

電子黒板がデジタル教科書を映すスクリーンではなく、児童が参加できる新しい黒板として活用した。従来の黒板との併用やデジタル画像と実物を組み合わせることで、学習への理解度を深めた。これにより、校区全体で基礎的なスタイルを確立し、一貫した教育活動ができた。



ウ 交流活動を通して、考えを共有し表現できる授業

調べたことをまとめ、発表し合う言語活動はタブレット端末が最も得意とする分野である。タブレットは表現力を育成するプレゼン機能が充実している。相手の反応を確認しながら説明することで、表現力の育成が進んだ。交流活動を通して、個人の考えを他者と意見を交流することで練り上げ、考えの共有化を図ることができた。



② ICT機器（電子黒板やタブレット端末）を活用した授業のユニバーサルデザイン化

御所ヶ丘中学校区ではインクルーシブ教育を進めており、授業の中での合理的配慮を進めた。具体的には、タブレット端末を活用した時間の視覚化、検索機能を活用した調べ学習の充実、伝え合う力を高めるプレゼン機能の活用、電子黒板を活用した拡大化である。児童生徒にはっきりと見えるものを提示することで、学習場面での理解を深めることができた。



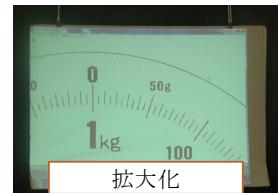
時間の視覚化



検索機能の活用



プレゼン機能



拡大化

(4) 交流教室（小学6年生対象）

① 第1回目の交流教室（平成27年10月8日実施）

ア ねらい

小小交流を主とし、他の小学生と交流することで中学校生活への期待感をもつことができるようにする。また、授業参観や学校見学を通して中学校の生活の様子を知る。

イ 交流内容

- ・3小学校が交流するグループエンカウンター
3小学校を7学級に分け、それぞれの学級に各小学校の6年担任が進行役を務め人間関係づくりのグループエンカウンターを行った。自分自身を紹介するものから始め、いくつかのゲームを行った。
- ・授業参観及び校舎内の施設見学
教室や特別教室等、中学1年生と3年生の授業の様子を自由に参観して回った。また、グループになって校舎内の施設を見学した。



3小学校が楽しく交流

ウ 児童の反応（抜粋）

- ・中学に上がった時に友達ができるか不安でした。交流会のおかげで他の小学校に友達ができ、とても楽しかったです。中学に行くのが楽しみになりました。
- ・中学生は授業に集中して取り組んでいたので、やっぱりすごいと思いました。今回の交流教室は刺激的でした。部活動の様子も見たいです。

② 第2回目の交流教室（平成28年1月29日実施）

ア ねらい

小中交流を主とし、中学生との交流することで、中学校生活へ具体的なイメージをもったりめあてをもったりすることができるようにする。また、中学校進学に向けた心構えを育てる。

イ 交流内容

- ・小学生と中学生が交流するグループエンカウンター
6年生と中学校1年生が混合の学級をつくり、14か所に分かれてグループエンカウンターを実施した。小学校と中学校の職員が進行役を務め交流活動を行った。
- ・生徒会の生徒による学校紹介及び校長先生の話
生徒会の生徒が、パワーポイントを作成して授業や部活動、学校の規則や大きな行事などを丁寧に説明してくれた。6年生からは積極的な質問が次々に出された。また、校長先生からも6年生への温かい言葉掛けがあり、（6年生が）真剣に聞き入っていた。



生徒会の生徒による説明

・部活動の見学

生徒会役員が案内役を務め、学級を2グループに分けて文化部や運動部を見学して回った。様々な部活動で、中学生から説明や勧誘や歓迎の言葉掛けがあり、入部についての具体的な希望をもって見学できた。



部活動見学

ウ 児童の反応 (抜粋)

- ・部活動を見学できたのが、とてもよかった。自分が入部を考えているのは〇〇部ですが、他にもかっこよくて気になる部活もありました。体験入部が待ち遠しいです。
- ・生徒会の上級生がとても親切で、安心しました。学校のきまりや服装、勉強や部活動の様子が聞くことができたので、良かったです。
- ・御所ヶ丘中学校の校長先生の話聞いて、一日一日を大切に過ごしたいと思いました。中学校に入学するまであと少しなので、しっかりと準備をしていきたいと思いました。

③ 成果と課題

成果は2点ある。1点目は、小小交流についてである。短い時間ながら楽しみながら活動し、親交を深め合うことができたことで、進学への不安をもっていた児童も期待感が大きくなったと答えた児童が多かった。2点目は、生徒会の生徒による学校説明が、進学準備を進める6年生に有効に働いたという点である。課題として挙げられるのが、部活動の体験と、中学校で中学校職員の授業を受ける時間の設定である。

(5) 乗入れ授業

① 乗入れ授業の形態

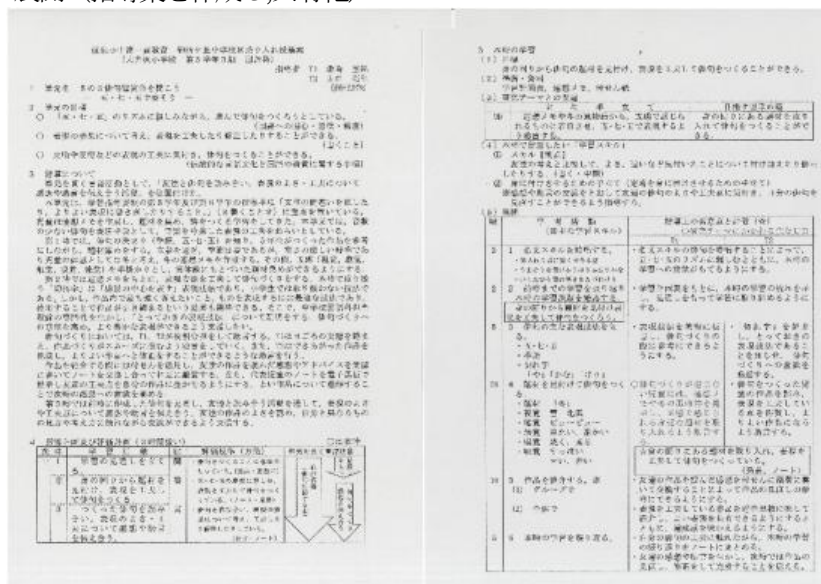
今年度は、乗入れ授業のもち方について、検討を重ね、国語の書く領域について、小学校での授業実践を共有化する形をとった。大井沢小学校の5年生の国語の授業を小学校教諭がT1、中学校の国語科教諭が、T2として指導し、他校の代表教諭が参観、研究協議を行った。授業参観・研究協議参加者が、各校に参観・協議した内容をもち帰り、校内研修として伝達し共有化を図った。

② 授業の実践

ア 単元名・・・「5の3俳句鑑賞会を開こう」

イ 授業者・・・T1 柴崎 亜紀 教諭(5年3組担任) T2 山口 亮生 教諭(中学校国語科担当)

ウ 展開 (指導案を作成し、共有化)



T1T2が役割分担して説明



T2が作品づくりのアドバイス

3 終わりに

道徳教育や情報教育においては、4校が検討を重ねながら着実に一貫教育の意識化・共有化を進めることができた。また、交流教室を実施したり、乗入れ授業の相互参観を実施したりできたことも大きな成果であった。今後は、児童のニーズに合った工夫ある交流教室のもち方、児童・生徒の実態に即し、ねらいに迫る乗入れ授業の確立が課題になると考える。次年度は、本年度の課題を解決し、日常化と具体化を目指したい。